

7～9 月期の新車販売は急増し、成長率を押し上げ

9 月の新車販売台数（軽自動車含む）は前年比 ▲9.5% となり、8 月の ▲22.4% からマイナス幅が大きく縮小した。但し、これは、エコカー補助金による駆け込み購入のピークが 2010 年 8 月のため、2010 年 8 月と 9 月の販売動向に断層があり、その裏が出ているためである。

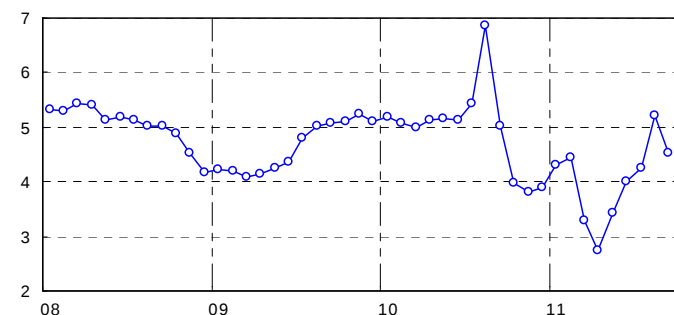
当社の季節調整ベースで見ると、9 月の販売台数は前月比 ▲13.2% の年率 454 万台と、8 月の 523 万台から減少している。とは言え、8 月に前月比 23.1% の急増を示した後であり、9 月の減少は反動減に留まる。9 月の販売水準は 7 月を 6.8% も上回っており、自動車販売の増勢が途絶えたわけではない。加えて、例年であれば、夏休みの関係から 8 月は正月休みのある 1 月と並んで、季節調整前の販売台数が少ない月であり、震災に伴う供給制約とその解消により販売パターンが変化したために季節調整が歪み、8 月の販売水準を大きく押し上げている可能性もある。

結局のところ、前年比マイナス幅の急縮小に示されるほどの販売動向の改善はないが、当社試算の季節調整値の増勢維持が指し示すように、新車販売台数は、供給制約解消による増加基調を未だ維持していると判断できるだろう。

7～9 月期平均の販売台数は年率 467 万台となり、4～6 月期を前期比 38.1% も上回る。サプライチェーン途絶に伴う供給制約から 4～6 月期は新車販売が ▲15.8% と落ち込み、耐久財消費を大きく押し下げた。一転、供給制約の解消を受けて 7～9 月期は新車販売が急増し、耐久財消費ひいては GDP 全体を大幅に押し上げる見込みである。但し、7～9 月期の販売水準は大震災前の水準を、既に概ね回復しており、更なる伸び代は少ない。震災に伴う買い控えや受注残の存在、加えて自動車メーカーの新モデル投入などを踏まえると、新車販売が 10～12 月期に大きく落ち込むとは考えにくい。しかし、震災による落ち込みからの持ち直しで高い伸びを示した 7～9 月期のような販売増加や成長率押し上げを、10～12 月期に期待出来ないことも確かであろう。

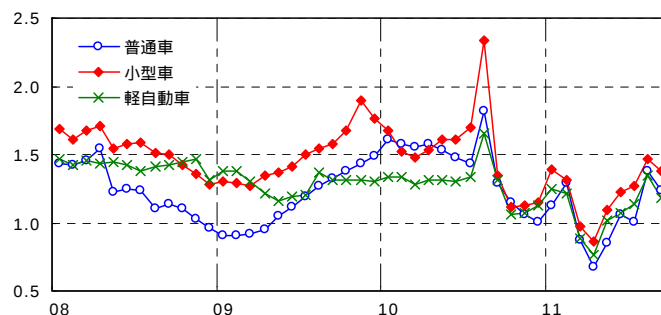
なお、車種別に動向を見ても、多くの車種で、7～9 月期の販売水準は大震災前 2 月を概ね上回っており、新車販売が全体として回復していることが確認できる。中でも、燃費意識の高まりから小型車の堅調が目立つ。

新車販売合計（年率、百万台）



(出所)自動車販売連合会等

乗用車販売の推移（年率、百万台）



(出所)自動車販売連合会等